

真野北学区自主防犯推進協議会（滋賀県）

活動地域の紹介と協議会の設立

滋賀県大津市から参りました真野北学区自主防犯推進協議会の河原です。「自分達の街は自分達で守る！地域に根ざした防犯活動」をテーマに発表します。

私どもの地域は琵琶湖大橋がございます。西岸約2キロに広がる前面に琵琶湖、後方に比良山系を望む丘陵地の間に、京阪電鉄が開発いたしました大規模住宅地「びわ湖ローズタウン」という新興住宅地があります。この約6割を占めておりますのが、私どもの真野北学区でございます。真野北学区は平成6年に設立し、早18年になりますが、町が開けてからもう38年になります。戸数が約3,200戸、住民が約8,400人です。少子高齢化が進んでおまして、一時、1,000人以上いた小学生が、現在では約280名と大幅に減少し、3分の1以下という非常に寂しい状況になってきております。



とは言いましても、非常に新しい町でございまして、防犯であったり、防災であったり、福祉であったりと、いろんな団体がそれぞれに活発に活動しております。しかし、その各種活動を総合的に展開することがなかなかできず、当時の自治連合会の幹部さんたちは悩んでおられました。

そういう中、犯罪が非常に多発したことで、各地における自主防犯意識が高まり、これを受け、平成16年12月に青色回転灯を装着したパトロール、いわゆる青パトが認められるようになりました。そして、滋賀県内において青パト第1号の地域が、平成17年1月に新聞で報道されました。この新聞報道を受けまして、当時の自治連の幹事さんが「これだ！」と思い、青パトを導入することで、この地域を総合的に展開していける団体を作っていこう、ということになりました。平成17年3月に準備委員会が設立され、4月10日に真野北学区自主防犯推進協議会が設立されました。「自分達の街は自分たちで守る」、「住民全員参加」をスローガンといたしまして、この学区内のほとんど全ての団体、38団体が構成員となり、発足いたしました。真野北学区自主防犯推進協議会が設立して、今年で8年目になります。

財政面につきましては、大津市の「安全なまちづくり事業費補助金」や自治連合会からの助成金、そして、住民全員参加の証といたしまして、自治会に加盟されておられる各ご家庭から年間100円の負担をいただいて運営をしております。

より効果的な活動を図っていくため、真野北学区自主防犯推進協議会が発足して約1週間が経過したところ、各防犯関係団体を全部集めて、各々どういう活動をしているのかということをお互い発表し合う機会を設けることにしました。すると、非常に無駄なことをしていた部分がすぐ明らかになりました。それは、小学生登校時の立ち番です。当初は、交通安全協会と小学校PTA、子ども安全リーダーが毎月1日と15日にやっておりました。大体立つ所もほぼ一定の場所で、そこへ3団体が立つわけですから、自

自主防犯推進協議会の設立

「自分達の街は自分たちで守る」「住民全員参加」をスローガン
平成17年4月10日 学区内38団体の構成団体で発足

◆財政面＝大津市安全なまちづくり事業費補助金
自治連合会補助金 各戸年100円負担金

◆設立後すぐの効果（登校時立ち番）

	交通安全協会	小学校PTA	子ども安全リーダー
設立前	毎月1日・15日		
設立後	毎月1日・15日	毎月10日・25日	毎月5日・20日

分たちの立ち位置を確保するのに必死になっているという馬鹿らしい状態でした。「そんな馬鹿なことはすぐにやめましょう。」ということで、交通安全協会は1日と15日、PTAは10日と25日、子ども安全リーダーは5日と20日といった日程調整を行い、これで人数は減りましたが、日数は3倍に増え、効率よく活動ができるようになりました。この状態で現在も継続しております。

真野北青パトあんしん隊の発足

「真野北青パトあんしん隊」の発足

- ・青パトの出発式 平成17年7月23日
- ・パトロール車数 14台（現在17台）
- ・パトロール隊員 22名（現在33名）
- ・青色 回転灯数 7台（現在17台）
- ・パトロール区域 真野北学区（現在真野北・隣接学区）
- ・パトロール回数 一人週1回・全体で一日2回以上

パトロールの 時間区分	パトロール時間	
	区 分	パトロール時間
A	午前	7:00 ~ 12:00
B	午後	12:00 ~ 17:00
C	夜	17:00 ~ 21:00
D	深夜	23:00 ~ 24:00

現在は非常に事務手続も簡素になりましたけれども、当時はもう本当に大変でした。当初、14台の導入でスタートしたのですが、1台1台に非常に複雑な手続が必要だったのです。やっと出発式を迎えられたのが、平成17年7月23日です。パトロール車は現在17台、パトロール隊員は当初22名から現在33名で活動しております。パトロール区域といいますのは、当初は自分の学区だけで活動しておりましたが、現在は区域を拡大させ、隣接学区も含めてパトロールをしております。

パトロール回数は1人週1回、全体で1日2回以上やっというこ、ということで、当初はちょうど14台でしたので、2人ずつ出ていくと、1週間でうまく回転させることができました。

パトロールの時間区分としましては、A、B、C、Dの4つに分けて、午前がA、午後がB、夜間がC、それからDは深夜徘徊撲滅のために、深夜活動していたのですが、最近では深夜徘徊がほとんど見られなくなりましたので、現在は活動をしておりません。

平成17年から平成23年までの延べ回数と延べ走行距離は、大体600～650回、1万キロを越す状態で現在推移をしております。

また、青パトは個人の車に青色回転灯を付けてパトロールしておりますけれども、我々はどうしても広報車が欲しかったのです。広報車は大津市の出先である真野北支所にありましたが、市職員でなければ運転ができないという不便さがあり、何とか自分たちのものが欲しいと思っておりましたところ、日本財団さんから寄贈を受けることになりまして、現在活用させていただいております。

平成22年7月23日、青パト発足5周年の式典にあわせて、青パト贈呈式を開き、広報車による活動を開始いたしました。車種については、パトロールだけではなく、地域のいろんなイベントの荷物を運ぶなど多用に使えるようにと、ライトバンを使用しております。

「真野北青パトあんしん隊」の発足

・青パトの年度別活動状況

	延出勤回数	延走行距離数	備 考
平成17年度	425回	5,344.1km	7月23日～3月31日
平成18年度	599回	8,515.1km	
平成19年度	548回	8,166.2km	
平成20年度	582回	9,202.7km	
平成21年度	601回	9,682.9km	
平成22年度	648回	10,428.0km	
平成23年度	624回	10,230.3km	
合 計	4,027回	61,569.3km	

・青パト広報車の導入

22年7月、日本財団より「青パト広報車」の寄贈を受ける



また、毎回隊員には日誌を書いていただいております、その日誌を集計し、報告書をまとめ、これを内外に配布しております。

それから、『青パトあんしん隊』ニュース』の創刊です。「青パトあんしん隊」そのものは当初、平成 17 年7月にスタートしたのですが、なかなか隊員同士が集まって話し合う機会がなかったため、「他の隊員はどんな形でパトロールをしているのだろうか。」「こちらの情報を他の隊員にも提供していきたい。」という意見のもと、いろんな情報の共有が必要だということで、この『青パトあんしん隊』ニュース』を平成 18 年4月に創刊いたしました。もう今月で 75 号になるのですかね。ずっと続けていくつもりで毎月発行しております。

また、読売新聞と京都新聞の販売店さんにご協力をいただきまして、A4 サイズを B4 に拡大したものを、読売新聞さん、京都新聞さんの購読者に折り込み配布していただき、さらに、その全ての経費を販売店に負担していただいております。そのおかげをもちまして、読者の方をはじめ、広く知れ渡るようになりました。

「青パトあんしん隊」ニュースの創刊

- ・「青パトあんしん隊」ニュース 月刊紙で創刊(H18年4月)
- ・隊員間のコミュニケーションと情報発信
- ・読売・京都新聞販売店協力で購読者に折込配布



その他の取組



他の取組として、次に私どもが考えましたのは、スクールあんしん隊の結成です。奈良県の富雄地区で起こった悲惨な事件の後、平成 17 年から 18 年にかけて悲惨な事件がさらに続きました。これを何とかして、自分の町に帰ってくる子どもたちを家まで安心して送り届けようという意志の下、スクールあんしん隊を結成いたしました。

その次に考えましたのは、活動地域の拡大です。自分の学区だけがよければ良いということでは決してありませんので、隣接した学区も含めた広域防犯の必要性を感じた我々は、隣接学区にいろいろと働きかけをいたしまして、現在、青パトも隣接学区にまで活動範囲を拡大した取組をしております。毎年秋に開催される全国地域安全運動期間中では、隣接学区内であり、JR湖西線の小野駅前でも共同啓発活動を実施するなど、その他さまざまな活動を行っております。

それから、県内外問わず、我々の活動を発表して欲しいというご要請をいただき、あちこちに参りました。

その他、究極の防犯活動といわれる「あいさつ運動」もまた実施しております。非常に大事なことで、簡単なことなのだけれども、なかなか定着しない。これを何とかしていこう、ということで現在取り組んでいるところです。男はなかなかそういうものに取り組みにくいものですから、女性を前面に立てて、女性の方に「あいさつ運動」を広げる先導をしていただこうという

隣接学区との広域防犯活動取組み

- ・防犯は、隣接学区など広域で実施が重要との認識から、ローズタウン内の「小野学区」と共同で防犯活動を展開



ことで、ピンクののぼり旗、ピンクのスカーフ、そして今年からウインドブレーカーを導入いたしまして、展開を図ろうと考えております。

また、今年から、自転車のマナー向上をテーマに掲げ、どのように図っていこうかと現在検討しているところであります。

活動の成果

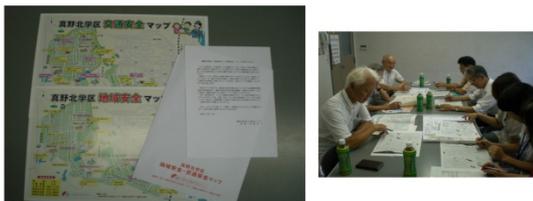
この自主防犯設立と活動による成果といたしましては、防犯活動の飛躍的な拡大を図り、県、市、警察を始め、各団体間の連携が強化されたことで、住民の方の防犯意識の向上につながっていること、さらに、挨拶運動や登下校の見守りが強化されたことで、子どもたちの挨拶・防犯に対する認識の変化や、大人と子どもたちとの交流が強化されたところにあると考えております。また、我々の活動を報告させていただく機会があることで、発表する側もされる側もお互いに刺激を受けることができ、成果へとつながっております。また、広報車を贈呈していただいたことや、平成 18 年に滋賀県知事表彰である「滋賀安全なまちづくり大賞」をいただけたということが成果として表れてきているのではないかと思います。

今後の課題

今後の課題としましては、どの団体においても共通することと思いますが、防犯活動の後継者の確保をどうやっていくか。活動の継続をどう維持させていくか。予算の確立。それから、防犯マニュアルの作成。現在、なかなか取り組めていないのですけれども、これは何とかしておかなければいけない、という思いでおります。

「地域安全」「交通安全」マップ作成

- ・茶の間で話題になるマップを計画し作成する
- ・学校(子ども達)、PTAの協力を得る
- ・県共同募金会の助成を中心に、PTA、自主防犯で援助



真野北あいさつ運動『ほほえみ』

- ・平成21年9月 真野北あいさつ運動『ほほえみ』を立上げ
同時に実戦部隊 レディースグループ『ほほえみ』を結成



自主防犯設立・活動による成果

- ・防犯活動の飛躍的拡大
- ・各団体間の連携強化
- ・住民の防犯意識の向上
- ・登下校の見守り強化
- ・子ども達の「あいさつ」「防犯に対する認識」の変化
- ・大人と子ども達の交流強化
- ・県、市、警察などとの連携強化
- ・広域防犯の取組み
- ・県内外への活動報告講演活動
- ・公園の安全性確保

これはちょっと話が違いますが、子ども安全リーダーが作成している地域安全マップと交通安全マップにつきまして、昔は大きな紙で作ったものを学校や市民センターに配布していたのですが、これを茶の間の話題にできないかということで、B3版に縮小した小さいサイズ専用のマップを新たに作り、それを子どもたちの手に配布し、家の中での話題にしてもらうような形も実施しています。

以上でございます。ありがとうございました。

質疑応答

●質問(司会) 平成 22 年 7 月に増車した青色回転灯装備車両は、公益財団法人日本財団からの助成ということですが、もう少し詳しく教えていただけませんか。

○回答 広報車につきましては、日本財団さんが助成事業をされているということを知り、申し込みをして助成をしていただきました。

●質問(司会) 現在、青色回転灯装備車両は、全国で 8,500 団体、38,000 台まで増えたという実態にあって、防犯ボランティア活動の中核となっておりますが、日本財団の助成を知ったきっかけというのは何かあったのですか。

○回答 ホームページで見ました。今日、お見えになっています。

●質問(司会) せっかくの機会です。青色回転灯装備車両は、初期の導入費用というのも案外掛かるものです。また、運用経費もやはり団体活動の上ではいろいろ考えていかなければならないというところで、活用に当たり工夫が必要なところだと思いますが、日本財団が事業展開している青色回転灯装備車両への活動支援、助成をご案内いただけませんかでしょうか。

○回答(日本財団) 私どもは、青色防犯パトロール車の白と黒のツートンカラーの車を皆様に助成しております。最大 130 万円まで補助をし、総事業費の 80%を日本財団が補助させていただくという形になります。毎年、全国でたくさんの団体様から申請をいただきまして、その後、審査を通られた場合に助成が可能となります。その後、意見交換等やりつつ情報収集しまして、私どもは団体さんと一緒に事業をしているという状況です。

●質問(司会) 今年3月には、東京都内で青パトフォーラムを開催なさったようですね。その辺りのご紹介、また今後の活動の展開の方向なども簡単に教えていただけませんかでしょうか。

○回答(日本財団) 私どもは、2007 年度から青パト助成事業を開始いたしまして、今年の3月に東京都内の日本財団ビルで、青パトフォーラムを開催しました。青パトの活動に関する先進的な事例を持っていらっしゃる団体様を、事例発表を通じて大体 200 名ほどの方に聞いていただきました。どうやって活動費を集めているのか、こういうことは誰に聞けばいいのだろうか、というように、私たちが全国を駆け回って団体さんや関係者の方からヒアリングした問題を分科会などで議論します。本年度は、来年3月に大阪で開催を予定しているという状況です。

●質問(司会) 活動経費はどんな団体においても悩みの種だということ、自治会を通じて、各戸から 100 円ずつ集めることができたというお話でした。自治会の方々にご理解をいただいて協力を得るまでの工夫は、どのようなことをされましたか。

○回答 当初は、自治連合会の会長さんなどの非常に強いリーダーシップがあったからこそだと思うのですが、我々の真野北学区は、皆さんがいろんな活動に対して積極的な方が非常に多い地域だと私は感じておまして、「自分の町を守っていこう」という思いで、異存なくご負担いただいているのだと思います。ただ、100 円では足りませんので、これを今年の総会ではあと少し上げてほしいということで、将来に向けて検討をしているところです。現在は、青パトでパトロールをすれば、町を歩いている方からご挨拶をいただくなど反応が多数ありますので、皆さんに十分ご理解をいただいていると思っております。